

図4 環境別報告結果 (種類別)

④ 地域ごとのグループ分けによる結果

環境別種類別結果から似通った種類同士をグループにし下記のとおりグループ分けを行いました。

- A コナラ・ミズナラ
- B クヌギ・アベマキ
- C カシワ・ナラガシワ
- D コジイ・スダジイ
- E アカガシ・ツクバネガシ・ウラジロガシ・イチイガシ・ウバメガシ
- F マテバシイ・シリブカガシ
- G スダジイ・コジイ (ツブラジイ)

以上のような7つのグループで地域別に比較してみました。

大津市の北部地域や山中比叡平、藤尾、富士見台、南部地域で里山に多く見られる種(A、B、Cグループ)が多く、滋賀、長平等神社が多いところではコジイ、スダジイが多くなっているのがわかります。都市化の進んでいる地域では里山に見られるような種類のドングリの木はないようです。

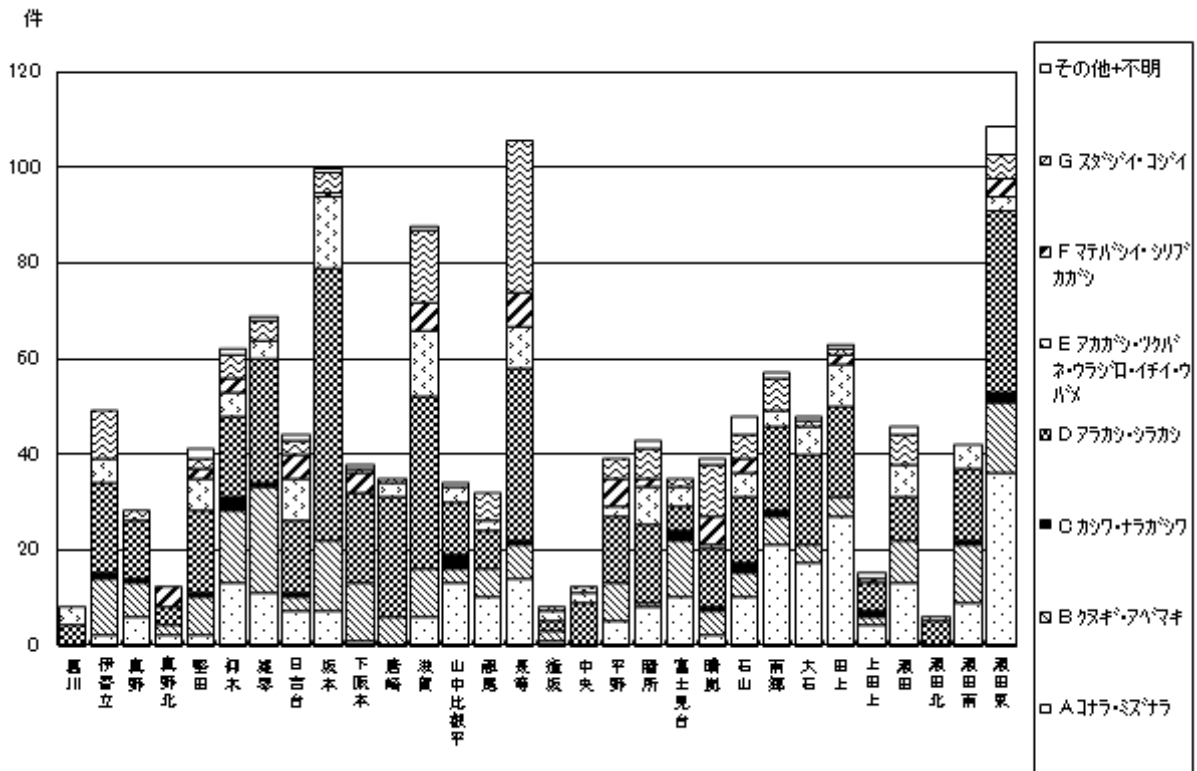


図5 7グループ別地域分布

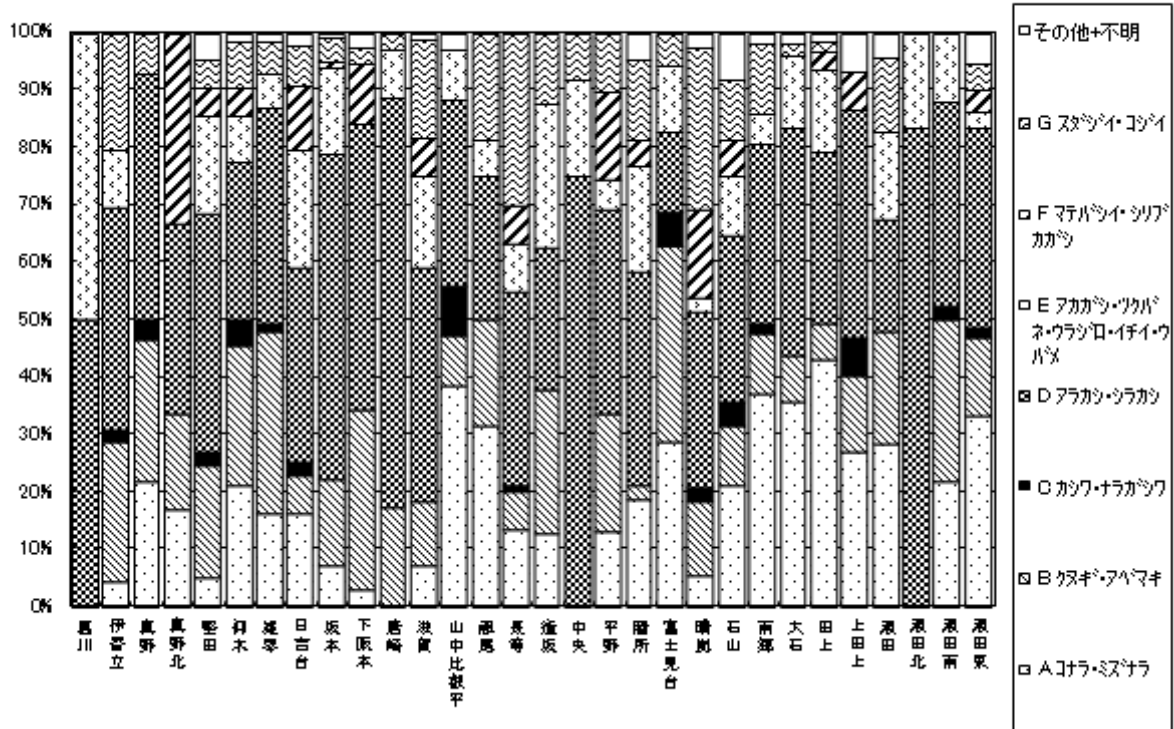


図6 7グループ別地域分布(割合)

平成25年度ドングリの調査について（一部改訂版）

（1）調査期間

平成25年9月14日（土）～平成25年11月30日（土）

（2）調査対象地域

大津市内全域

（3）調査するドングリの種類（※平成14年度と同一）

- シイ属 …スタジイ、ツブラジイ
- コナラ属 …クヌギ、カシワ、アベマキ、ナラガシワ、コナラ、ウバメガシ、ミズナラ、アカガシ、ツクバネガシ、ウラジログシ、シラカシ、アラカシ、イチイガシ
- マテバシイ属 …マテバシイ、シリブカガシ

（4）調査方法

本年度と同一

（5）調査結果

全体の概要

調査件数は延べ1,022件（市外15件除く）で、地域別に見ると青山学区を除く大津市内の全ての地域で見つかっており、種類別に見ると対象となったドングリ17種類全てが見つかっています。

① 種類別報告結果

調査対象となっていた17種類のドングリ全てが大津市内にあることが確認されています。特に報告件数が多かったのはアラカシ231件（22.6%）で、続いてコナラ125件（12.2%）が多くなっています。アラカシは自生も植栽もありいろいろなところで見かけられ、関西で最もありふれたドングリだといわれるのも納得できます。

② 地域別報告結果

特に報告件数が多かったのは、順に滋賀116件、小松92件、坂本77件で、これらの地域にはドングリがあると思われる特定の場所が存在することが原因していると考えられます。例えば、滋賀には近江神宮、坂本には日吉大社や西教寺というようにこれらの地域にはドングリをよく見かける場所があります。

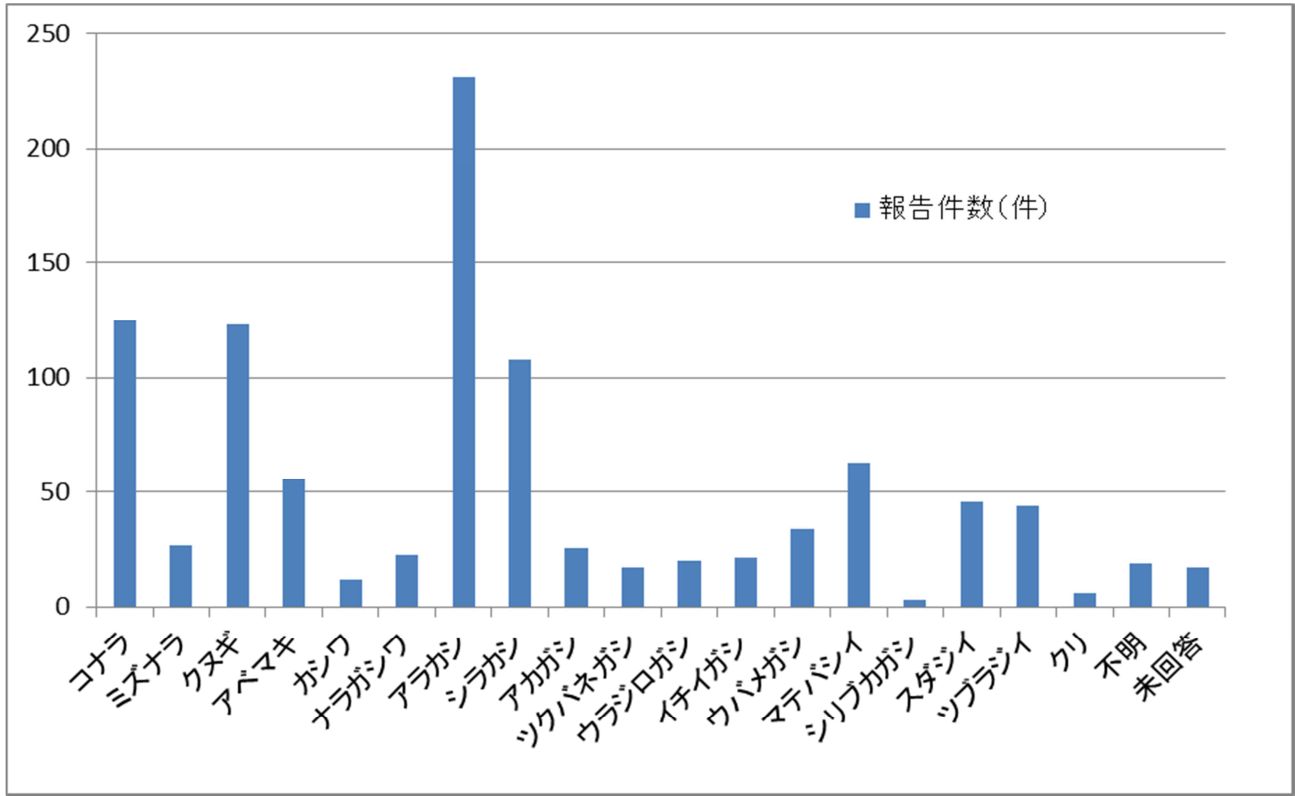


図1 種類別報告件数

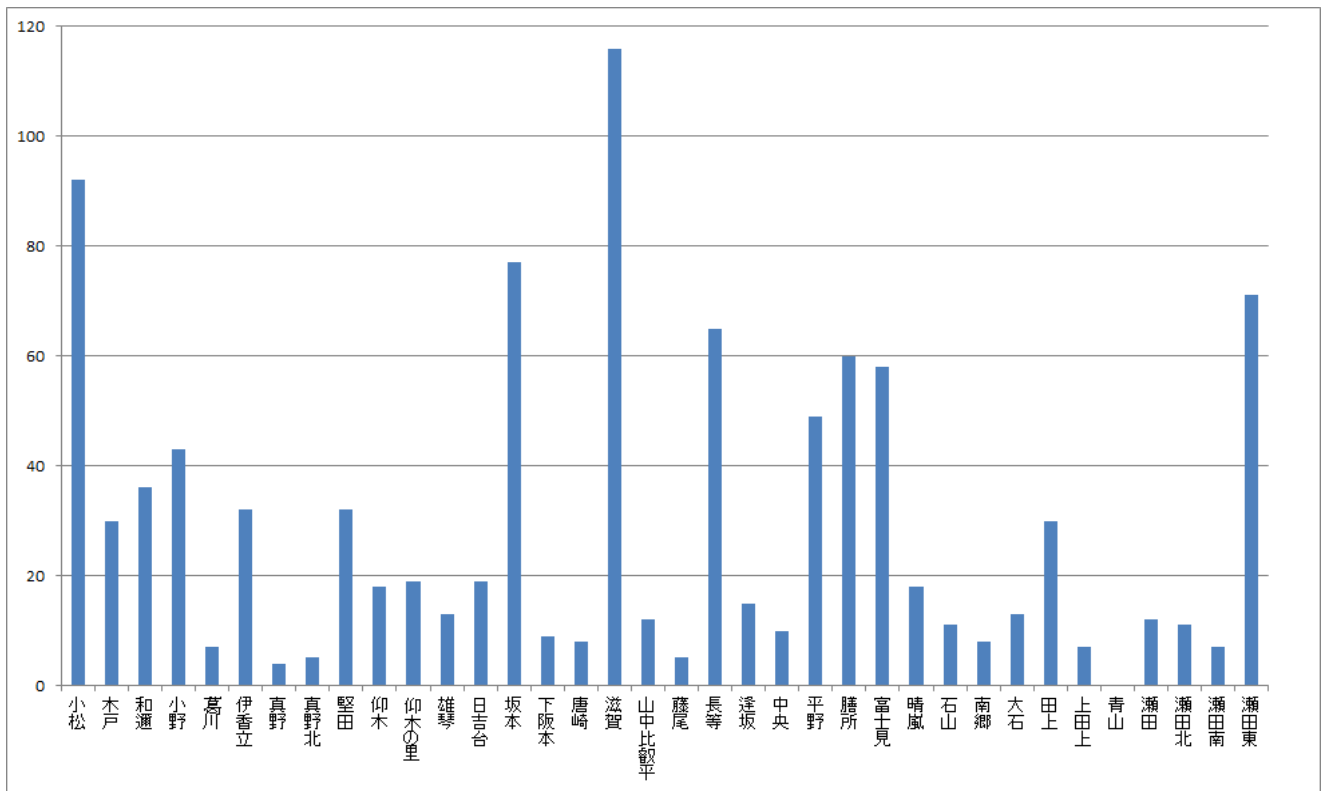


図2 地域別報告件数

③ 環境別報告結果

ドングリは全体的に見て山、道沿い、公園、社寺などを代表として様々な環境に育っていることがわかります。

次に、種類別にドングリの木のある環境の種類を比較します。

コナラ、ミズナラ、クヌギ、アベマキ、カシワ、ナラガシワのような落葉樹は、山や林などに自生している場合が多く昔からある里山の風景に馴染むものと考えられます。

常緑のシイ類であるコジイ、スタジイは寺社に多く植えられています。

同じく常緑でカシ類のアラカシ、シラカシは様々な環境で自生、植栽されており、アカガシは山の方にあり、ウラジロガシは山に自生していたり寺社に植えられていたりします。また、イチイガシは寺社に多く大津市で自生しているものはないと言われています。そして暖かい地方の海岸で自生するウバメガシは、家の垣根として見かけたり公園などで身近に見られます。

マテバシイは公園などに多いようです。

ツクバネガシやシリブカガシなどは報告が数件しかなく、この結果からは傾向は捉えにくいと考えられます。

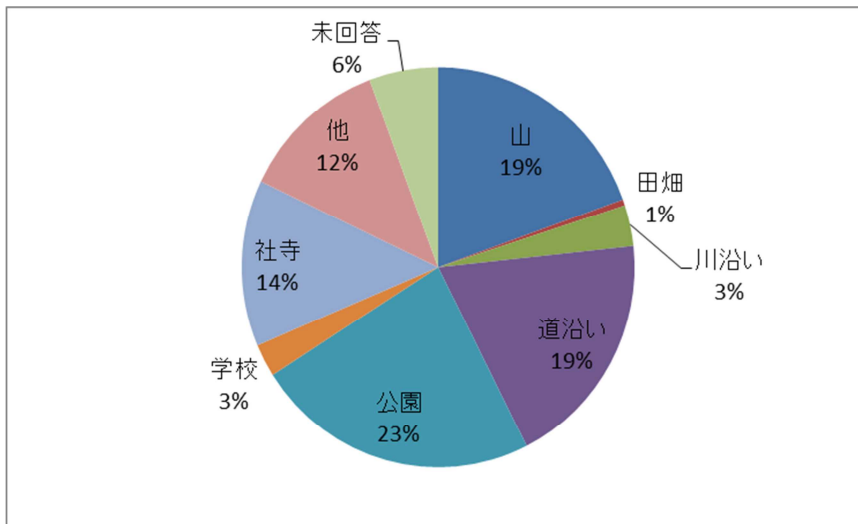


図3 環境別報告結果(全体)

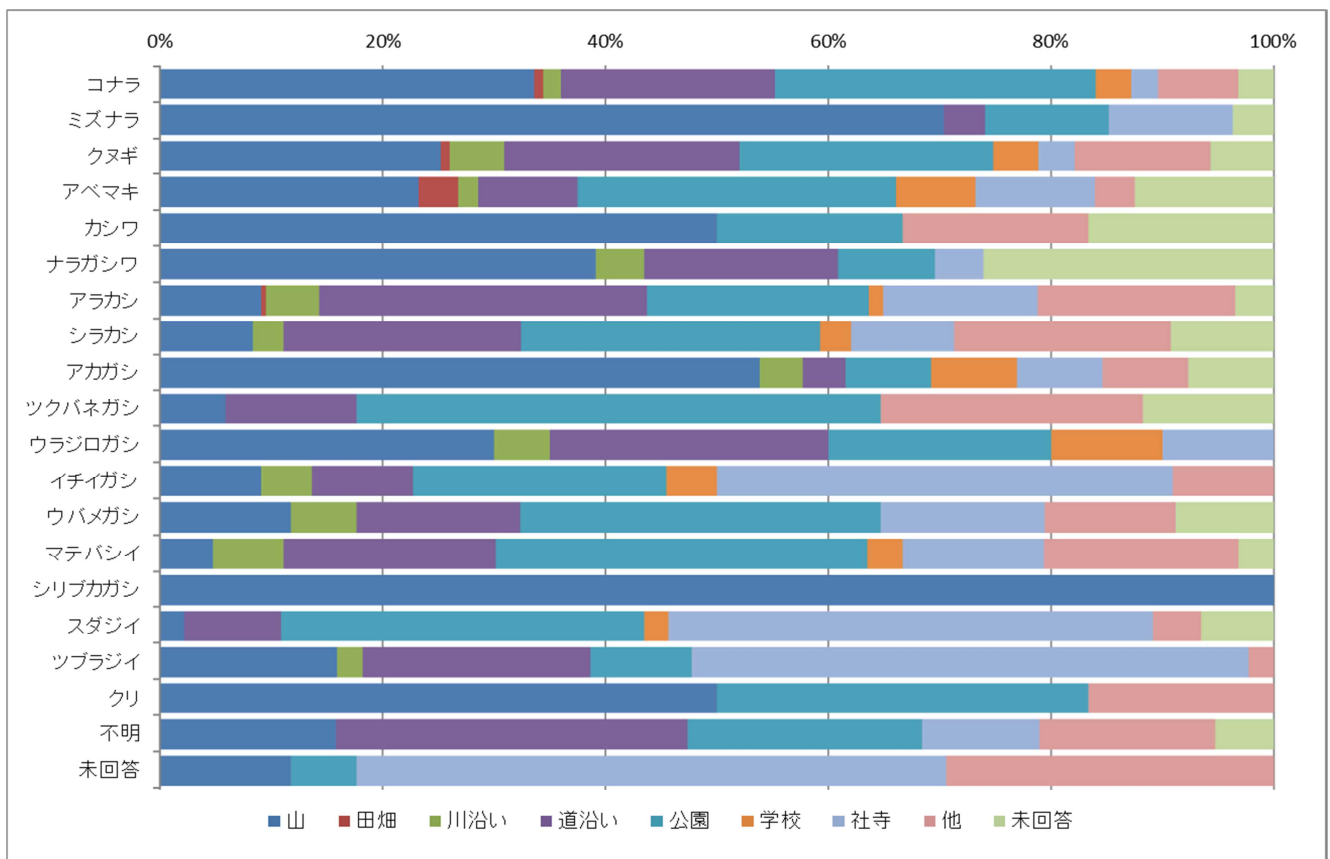


図4 環境別報告結果 (種類別)

④ 地域ごとのグループ分けによる結果

環境別種類別結果から似通った種類同士をグループにし下記のとおりグループ分けを行いました。

- A コナラ・ミズナラ
- B クヌギ・アベマキ
- C カシワ・ナラガシワ
- D アラカシ・シラカシ
- E アカガシ・ツクバネガシ・ウラジロガシ・イチイガシ・ウバメガシ
- F マテバシイ・シリブカガシ
- G スダジイ・ツブラジイ

以上のような7つのグループで地域別に比較してみました。

まず、ABCグループについては、旧志賀町地域を中心とした北部、滋賀、富士見、瀬田東で多く見られます。これらは落葉樹であり、里山に多い種類であるといえ、山裾や森、公園がある地域に集中しているようです。

つぎに、DEFグループについては、中部地域を中心に多く見られ、加えて北部地域や瀬田東の森でも見られました。これらは常緑樹であり、街路樹や生垣、社寺や公園の植栽に使われている関係で中部に多いと考えられます。一方で、山に自生するものも多いようです。

最後に、Gグループについては、これも常緑樹ではありますが、社寺がある地域で多く見られました。社寺では樹木が保護されるとともに、古来の森の一部がそのまま残されている場合もあり、極相林を形成するシイ類が多いという理由が考えられます。

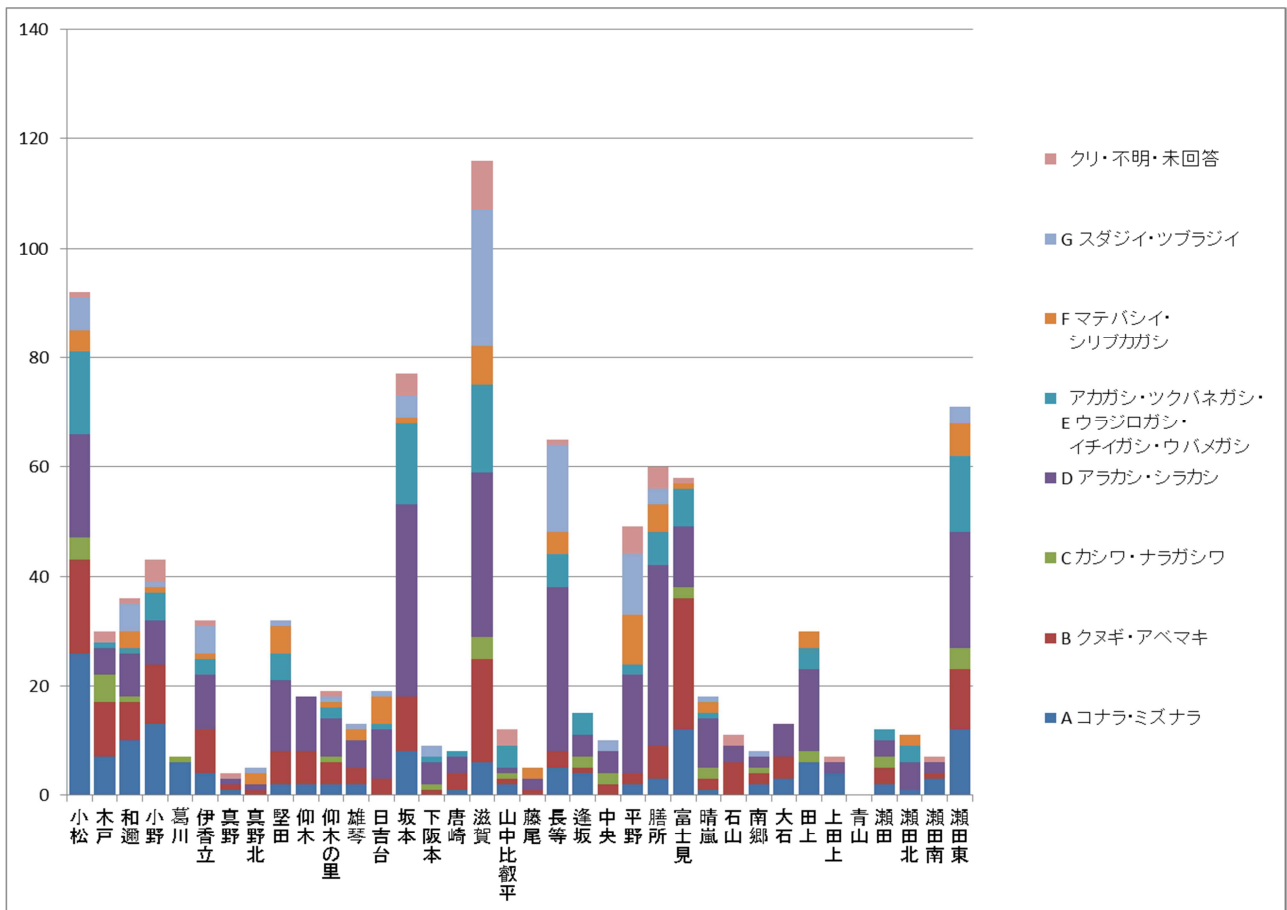


図5 7グループ別地域分布

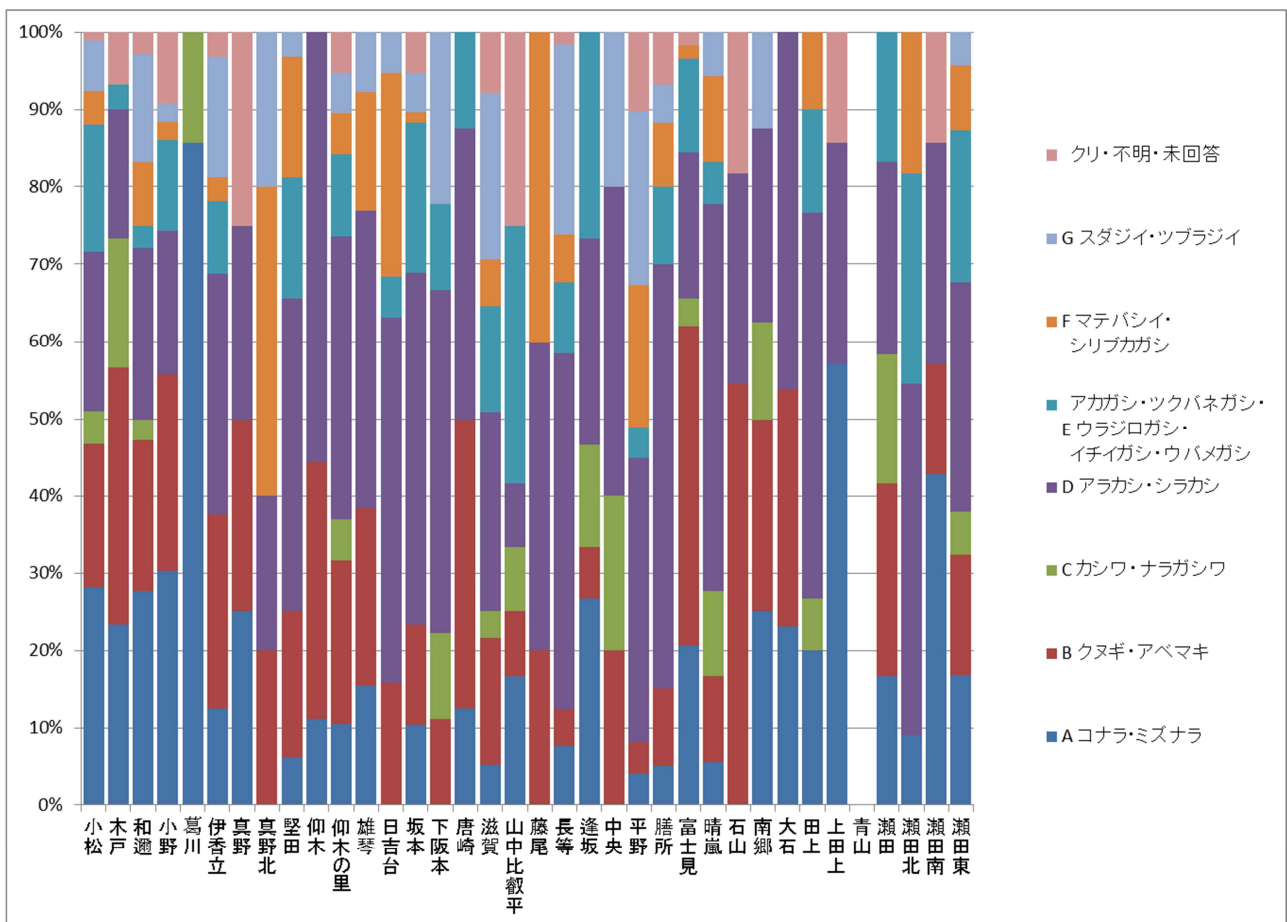


図6 7グループ別地域分布(割合)

令和元年度と平成 14 年度及び平成 25 年度の調査結果の比較

今回の調査結果と、平成 14 年度及び平成 25 年度に実施された調査結果を比較してみました。
 なお、平成 14 年度当時は旧志賀町との合併が行われる前ですので、小松・木戸・和邇・小野の 4 学区については調査報告がありません。また、仰木の里・青山の 2 学区についても分立前であり同様です。

さらに、クリ、ブナ、イヌブナについては令和元年度より追加対象となりました。

① 種類別報告結果

どの年度においても、コナラ・クヌギ・アラカシ・シラカシの報告が多いことに変化はありませんでした。

また、今回調査対象となったクリについては、構成比から市内に比較的多く存在していることがわかりました。

これに対し、ウバメガシ及びツブラジイにおいては年々減少傾向にあります。

種類	平成14年度 報告件数(件)	構成比率	平成25年度 報告件数(件)	構成比率	令和元年度 報告件数(件)	構成比率
コナラ	254	19.0%	125	12.8%	132	13.5%
ミズナラ	12	0.9%	27	2.8%	21	2.1%
クヌギ	179	13.4%	123	12.6%	151	15.4%
アベマキ	34	2.5%	56	5.7%	34	3.5%
カシワ	13	1.0%	12	1.2%	1	0.1%
ナラガシワ	9	0.7%	23	2.3%	11	1.1%
アラカシ	381	28.5%	231	23.6%	270	27.6%
シラカシ	126	9.4%	108	11.0%	94	9.6%
アカガシ	27	2.0%	26	2.7%	9	0.9%
ツクバネガシ	3	0.2%	17	1.7%	8	0.8%
ウラジロガシ	36	2.7%	20	2.0%	12	1.2%
イチイガシ	23	1.7%	22	2.2%	15	1.5%
ウバメガシ	49	3.7%	34	3.5%	7	0.7%
マテバシイ	52	3.9%	63	6.4%	51	5.2%
シリブカガシ	4	0.3%	3	0.3%	7	0.7%
スダジイ	39	2.9%	46	4.7%	28	2.9%
ツブラジイ	96	7.2%	44	4.5%	23	2.4%
クリ		0.0%		0.0%	92	9.4%
ブナ		0.0%		0.0%	11	1.1%
イヌブナ		0.0%		0.0%	1	0.1%
合計	1337	100%	980	100%	978	100%

調査の結果を、さらに比率の多い種類（A）、少ない種類（B）および本年度より追加になった種類（C）にグループ分けをすると、以下のような表になりました。

グループ	種類	平成14年度 構成比率(%)	グループ での割合(%)	平成25年度 構成比率(%)	グループ での割合(%)	令和元年度 構成比率(%)	グループ での割合(%)
A	コナラ	19.0	70.3	12.8	60.0	13.5	66.1
	クスギ	13.4		12.6		15.4	
	アラカシ	28.5		23.6		27.6	
	シラカシ	9.4		11.0		9.6	
B	ミズナラ	0.9	29.7 (ABグループ の中では 29.7%)	2.8	40.0 (ABグループ の中では 40.0%)	2.1	23.1 (ABグループ の中では 25.9%)
	アベマキ	2.5		5.7		3.5	
	カシワ	1.0		1.2		0.1	
	ナラガシワ	0.7		2.3		1.1	
	アカガシ	2.0		2.7		0.9	
	ツクバネガシ	0.2		1.7		0.8	
	ウラジログシ	2.7		2.0		1.2	
	イチイガシ	1.7		2.2		1.5	
	ウバメガシ	3.7		3.5		0.7	
	マテバシイ	3.9		6.4		5.2	
	シリブカシイ	0.3		0.3		0.7	
	スダジイ	2.9		4.7		2.9	
ツブラジイ	7.2	4.5	2.4				
C	クリ	-		-		9.4	10.6
	ブナ	-		-		1.1	
	イヌブナ	-		-		0.1	

平成14年度からの変化を見ると、Bグループ内の多くが徐々に減少し、またAグループに対するBグループの相対的な割合においても減少していることが分かります。このことは、里山や自然林の減少に加えて、アラカシやシラカシなどの植栽により、いままで多様な自生種からなっていた自然の姿が、少しずつ崩れているからではないかと想像します。

② 学区別報告結果

平成14年度は瀬田東・長等の報告が多くありましたが、平成25年度は滋賀・小松の報告が多くあり、さらに令和元年度においては堅田・小松の報告が多くありました。

瀬田東については、開発により里山や山林が減少しているということが考えられます。それでもなお文化ゾーンや龍谷大学周辺の森は、大津市東部における多種多様なドングリを見ることのできる自然の多い地域となっています。

平成14年度から平成25年度にかけての長等・滋賀の変動については、平成14年度の皇子が丘公園にかかる報告を全て長等で処理しているのに対し、平成25年度はメッシュ番号の違いによって、長等と滋賀の2つに分けたことによる影響かと考えられます。

また、平成25年度から令和元年度にかけての滋賀・堅田の変動については、今年度、団体で堅田を調査されたことが最たる要因ではないかと考えられます。

小松については、上述のとおり旧志賀町にあたりますが、この地域における報告は非常に多く、種類も豊富であり、今後も本市が守るべき大切な自然環境であることがわかります。

さらに、平成14年度から令和元年度までを通しての傾向として、葛川、真野、堅田、仰木など北部の地域での報告件数が増加している反面、膳所、平野、富士見など市街化の進んだ中央部での報告件数の減少傾向が読み取れます。

なお、0本となっている学区については、調査員の方がいなかった可能性があるため、一概に存在しないことを示すものではありません。

学区	平成14年度 報告件数(件)	平成25年度 報告件数(件)	令和元年度 報告件数(件)
小松		92	110
木戸		30	72
和邇		36	43
小野		43	21
葛川	13	7	33
伊香立	49	32	35
真野	28	4	63
真野北	12	5	2
堅田	41	32	120
仰木	62	18	64
仰木の里		19	22
雄琴	69	13	30
日吉台	44	19	8
坂本	100	77	86
下阪本	38	9	12
唐崎	35	8	11
滋賀	88	116	32
山中比叡平	34	12	1
藤尾	32	5	11
長等	106	65	42
逢坂	8	15	5
中央	12	10	3
平野	39	49	9
膳所	43	60	7
富士見	35	58	13
晴嵐	39	18	4
石山	48	11	11
南郷	57	8	14
大石	48	13	0
田上	63	30	11
上田上	15	7	13
青山		0	32
瀬田	46	12	11
瀬田北	6	11	5
瀬田南	42	7	17
瀬田東	109	71	34
合計	1361	1022	1007

③ 環境別報告結果

平成14年度においては、環境項目に「林」が入っていることから取り扱いが難しいところではありますが、報告全体における環境の構成は、山、道沿い、公園、社寺が多いという、ほぼ同じ形状を示しています。ただし、年度毎に比較をすると、社寺についてはやや減少傾向が見られ、対する道沿いや公園では増加傾向が見られます。このことから、里山の減少と市街地における植栽の増加が見て取れます。また、社寺についてはそれ自体の減少が考えられます。

